

東日本大震災における宮城県災害対策本部及び関係組織の動きに関する研究
 Research of Actions of Emergency Operations Center of Miyagi Prefectural Government and
 Related Organizations after the Great East Japan Earthquake

○趙迎・林春男

○Ying ZHAO, Haruo HAYASHI

When dealing with large-scale disasters, emergency operation center will be established as the first response to the emergency usually. The basic functions of emergency operation center are supposed to include intelligence gathering, communicating with related organizations and prediction not only for the development of natural hazard but also about the change of social needs and the tendency of social phenomena. After the great east Japan earthquake, the important fact that how to coordinate the relationship and the actions between different organizations has become an unavoidable research topic was deeply realized. This research is focus on the analysis for the actions taken by emergency operations center of Miyagi prefectural government and related organizations after the great east Japan earthquake as a case study. The source material is provided by Miyagi prefectural government publicly, and it will be analyzed by time series.

1. はじめに

災害対策基本法により、災害直後、特に大規模災害が発生した場合、関係都道府県および市町村の職員を本部員とする災害対策本部を設置すると規定されている。災害対策本部の役割として、自衛隊を始め、水道や道路などの関係組織との連絡調整が重要な位置を占めている。関係組織との連絡調整や業務連携は、効果的かつ効率的な災害対応に直接に繋がっていると考えられる。しかし、大規模災害の場合、複数種類の自然災害と広域の被災範囲が想定でき、災害対策本部と連絡調整が行われる関係機関の数が大きく、情報収集、状況認識の統一、業務に関する連絡及び調整が困難である。東日本大震災が発生してまもなく三年になる現在でも、各自治体や地方政府が当時の災害対応に対する検証や研究が継続している。

宮城県の場合、東日本大震災における宮城県の経験とその対応が県政府のほうで整理され、今後の大規模災害への備えとなる教訓として、多くの行政機関や関係組織に幅広く活用できるように、行政記録の整理、検証分析および資料公開を実践した。

2. 研究対象と手法

宮城県のほうでは、東日本大震災の記録および検証資料として、「東日本大震災－宮城県の6か月間の災害対応とその検証－」と「東日本大震災（続編）－宮城県の発災6か月後から半年間の災害対応とその検証－」という災害発生から一年間において、行政および関連機関の対応や活動の総括を作成し公開された。

本研究の基となる資料は、「県災害対策本部及び関係機関の対応状況」という図表であり、テキスト形式にデータベース化し、時系列解析を図る。これにより、宮城県と関連組織の動きの関連をより明らかにできると考えられる。